

性差医療情報ネットワーク (NAHW) 九州支部活動報告

河野宏明 清田真由美 田中裕幸 中川幹子

松木貴彦 嘉川亜希子 雨宮 直子

第九回性差医療情報ネットワーク (NAHW)

九州支部セミナー

平成30年6月1日 福岡市で開催

代表世話人 雨宮 直子



健康講座
参加費無料

女性と男性、
同じ病気でも

気をつけるポイントや
治療が違う！？

性差医療情報ネットワーク(NAHW)は、性差医療・医学についての情報発信を行っている医師の会です。今回、九州で初めて一般の方に向けて講演会を開催します。

女性と男性では、身体のつくりや考え方が違うのは当たり前のこと。かかる病気が違うのもなんとなく想像できます。それでは、病気に対する治療も、女性と男性で違うことがあると考えたことはありませんか？ 当たり前のようで当たり前ではない、女性と男性の違いについて学んでみませんか？

「女と男の健康の違いを理解！あなたの健康を考える講演会」

講演1 19:05～19:35

女性のハートは傷つきやすい
～心臓と血管の性差医療～
◎鹿児島大学心臓血管・高血圧内科 嘉川 亜希子先生

講演2 19:40～20:25

ココロと肥満 男性と女性はどう違う？
～リバウンドを防ぐ認知行動療法～
◎九州大学病院心療内科特任講師 野崎 剛弘先生



日本肥満症治療学会 理事・メンタルストレス部会長など。専門は内分泌代謝の心身医学と摂食障害。日本で数少ない、肥満の認知行動療法を行う専門家の一人。

6月1日[金] 19:00 - 20:45

アクロス福岡会議室607号室 (福岡市中央区天神1-1-1)

参加費/無料 定員/60名

申込みはこちら(申込み優先、当日参加OK)▶



女性と男性、
医学的にどこが違う？

まず、当たり前ですが身体のつくりが違います。大きな違いはホルモン。女性ホルモンが分泌されている間、女性は様々な病気から守られています。例えば、脳梗塞や心筋梗塞を起こす動脈硬化は、女性ホルモンが分泌されている間は起こりにくいのです。そのため、女性と男性では、動脈硬化という同じ疾患でも、気を付けるべきポイントが変わります。

また、社会的役割も異なります。女性は男性に

比べると、どうしても家庭内での役割が大きいのが現状です。年齢や家庭の状況により、果たすべき役割が娘>妻>母>祖母を行きつ戻りつ変化します。更に、働く女性には、社会人としての役割も加わります。このような女性と男性の社会的役割の違いも健康や病気に影響し、治療をするときに気にしなくてはならないポイントになります。ぜひ、性差医療とは何か、女性外来とはどんなところなのか、講演にお越しください。

NAHW九州支部世話人
医療法人たかやま内科医院院長
雨宮 直子

医療法人 たかやま内科医院
住/福岡市南区野間1-9-20
TEL/092-551-5403
HP/http://www.takayama-naikaiin.com/

avanti online

トピックス
TOPICS

イベント
EVENT

インタビュー
INTERVIEW

キャリア
CAREER

ライフスタイル
LIFESTYLE

健康講座 参加費無料

「女と男の違いを理解！あなたの健康を考える講演会」

講演1 19:05～19:35

女性のハートは傷つきやすい ～心臓と血管の性差医療～

◎鹿児島大学心臓血管・高血圧内科 嘉川 亜希子先生

講演2 19:40～20:25

ココロと肥満 男性と女性はどう違う？ ～リバウンドを防ぐ認知行動療法～

◎九州大学病院心療内科特任講師 野崎 剛弘先生



日時/ 2018年6月1日(金)19:00 ~ 20:45

場所/ アクロス福岡会議室607号室 (福岡市中央区天神1-1-1) ⇒ [GoogleMap](#)

参加費/ 無料

定員/ 60名

ポスターを公共施設や駅、病院などに掲示していただいたほか、地元のイベントを案内をしているホームページやSNSを使って、一般の方に向けた告知をしました。

第9回NAHW九州支部セミナー

テーマ：「男と女の違いを理解！あなたの健康を考える講演会」

日 時：2018年6月1日（19:00～20:45）

場 所：アクロス福岡会議室607号

講演1：女性のハートは傷つきやすい ～心臓と血管の性差医療～

鹿児島大学心臓血管・高血圧内科 嘉川 亜希子 先生

講演2：ココロと肥満 男性と女性は違う？ ～リバウンドを防ぐ認知行動療法～

九州大学病院心療内科 特任講師 野崎 剛弘 先生

司会は、河野宏明先生にお願いいたしました。



嘉川 亜希子 先生

嘉川亜希子先生は、ご専門の循環器内科の分野から、これぞ性差医療というお話をしてくださいました。

豊富な臨床経験からご紹介いただく症例を交えたお話しは、会場から笑いも起こり、参加者の皆さんを性差医療の世界にいざないました。40代、50代の女性の参加者が多かったので、更年期女性の微小血管狭心症のお話などは大変身近に感じて聞いていただけたと思いました。

野崎 剛弘 先生



野崎剛弘先生は、九州大学病院心療内科で肥満の認知行動療法を実施しておられます。日本の肥満治療に、早い時期から認知行動療法を取り入れられた第一人者です。

今回は、ご専門の肥満治療について性差の視点からご講演いただきました。野崎先生は知っているようで知らない肥満につながる食生活や、性差を踏まえた肥満対策の実際などについてお話しくださいました。ちょっと急ぎ足でしたが、今日からでも実践できる内容に参加者だけでなく、世話人の私たちも興味津々で伺いました。



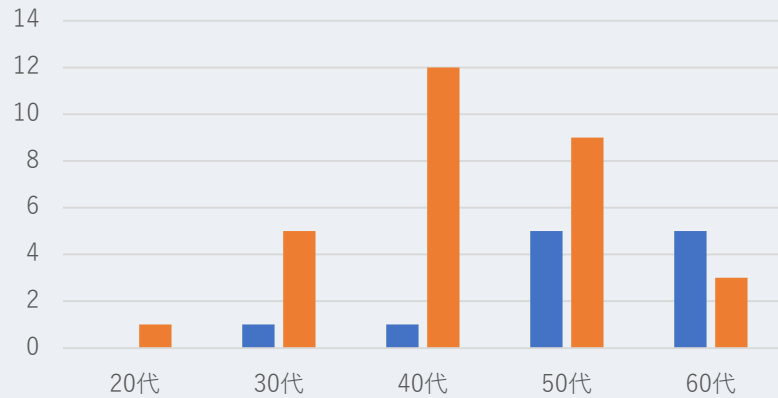
Nurses' Health Study (N Engl J Med 1997)

- 女性は男性に比べ体重で補正すると2倍以上菓子類を摂取している。
- マーガリン, ショートニング, 菓子類に含まれるトランス型脂肪酸の摂取は, 冠動脈疾患と有意な正の相関関係が認められている。
- 食品の摂取にみられる性差を念頭においた栄養指導が必要。

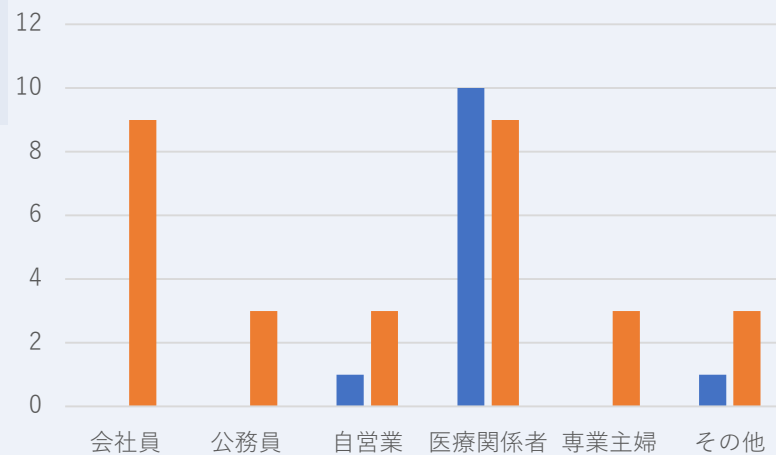
例年より少ない43名の参加でしたが、参加者の皆様が性差医療に関心を持って下ったことは何よりの収穫であったと思います。

年齢

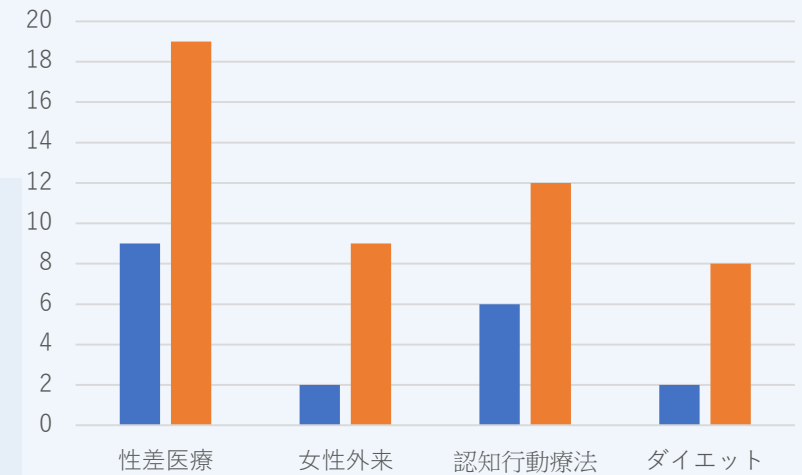
■男性 ■女性



職業



興味



セミナー後のアンケート結果の集計

最後に、清田真由美先生にご挨拶いただき閉会となりました。その際にCFS/MEのDVDについてご案内いただき、参加者の有志の方々から少しご寄付をいただいて、DVDはご希望の方に無料配布いたしました。ご寄付は、後日、清田先生が取りまとめて天野先生に託してくださったと伺っております。

実は、この講演会の2週間前に九大心療内科の須藤信行教授が大会長を務める第14回日本疲労学会（CFS研究会などが母体となった学会）総会・学術総会が九州大学で開催されており、その学会のランチョンセミナーで野崎剛弘先生がご講演になっていたのも不思議なご縁に感じました。

来年の第10回の記念のセミナーは、代表世話人河野宏明先生にお世話いただいて、熊本市で開催予定です。